の危險を脱せんとするものは、勢ひ他に走らざるを得ざりしが如く、誌の蕃落分崩の語は此の有様を說きしが如し、此の時公主既に婚せしこと先きに「雄渠作配」といへるに明らかにして、其の夫は前記阿史德覓覓なり、而して其の系統上の關係は彼等をして又た其の本國に安んずるを許さゞりしならむ、されど唐書等には此の際に歸順せし人のことは記さずして、却りて此の前二年卽ち開元二年、默啜尙ほ位にありて其の子移涅可汗（卽ち小可汗の謂なり）をして北庭を討たしむるや、軍利あらずして退くに當り、默啜の妹壻（冊府元龜には默啜の壻と記す）火拔なるもの、妻と共に唐に來奔して燕北郡王に封ぜられ、妻は金山公主となれり、其の翌年にも突厥の葛邏祿を討つや、唐より葛邏祿を助けし爲め亦た志を得ず、勢ひ寖削るに當りて、其の一族の唐に來奔するもの多く、合して萬餘帳に至り、之を河南に入れしが、其の重なるものには皆官爵を給へり、而して、默啜の女壻阿史德胡祿なるものゝ歸朝したるも亦た此の年卽ち開元三年にして、特進を授けられしこと通典百九十八卷に見え、舊唐書にも之を採錄せり、余は先きに阿史德覓覓の阿史德胡祿と見られ得べきを記せしが、然も此れが此の年に入朝せし一事は大に此の比定をして躊躇せしむるものなりとす、開元三年に當りては未だ此の墓誌の記するが如き蕃落分崩の事實は見えず、事は翌四年に屬すること前述の如し、かりに三年萬餘帳の來歸せしことを以て蕃落分崩の事實と見るも、尙ほ解し難き一事あり、卽ち此の時に來附せし吐谷渾大酋慕容道奴なるものは、冊府元龜によれば「開元三年八月……道奴左威衞大將軍員外置兼刺吏封雲中郡開國公、食邑二千戸、賜宅一區、物四百段、馬兩匹」と見ゆ（九百六十四卷封冊二）此の事はまた新唐書にも見えたり（突厥傳上）、もし舊唐書の阿史德胡祿を以て此の阿史德覓覓なりとせば、此の如く同時に雲中郡開國公なるものゝ兩人存在したる事實を認めざる可からざるに至るべし、されば默啜女壻特進阿史德胡祿なるものは、